

1 単元名 地理探究 現代世界の諸地域（北アメリカ地誌）

2 単元について

(1) 単元観

高等学校学習指導要領解説「地理探究」（平成30年7月告示）では大項目B 現代世界の地誌的考察の中項目(2)現代世界の諸地域において、「幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、諸地域に見られる地域的特色や地球的課題などについて理解すること」（文部科学省、2018）や、「現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現すること」（文部科学省、2018）が求められている。

一方で、吉水裕也（2025）は、「中等地理教育における諸地域学習のねらいは、学習対象となる地域の地域的特色の理解、そして、諸地域の学習を通して、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断する力やそれを説明する力を養うことである。にもかかわらず、実際の諸地域学習では地域的特色の理解に偏っている。」と述べている。つまり、この中項目における主な学習内容は諸地域の地域的特色と地球的課題であるにもかかわらず、この両者がバランスよく取り扱われていない課題を指摘している。

学習指導要領における同中項目の内容の取扱いでは、「取り上げた地域の多様な事象を項目ごとに整理して考察する地誌、取り上げた地域の特徴ある事象と他の事象を有機的に関連付けて考察する地誌、対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考察する地誌の考察方法を用いて学習できるよう工夫する」（文部科学省、2018）と示されており、いわゆる静態地誌、動態地誌、比較地誌という3つの地誌学習方法論が明示されている。しかし小関祐之（2021）は、個別的知識の羅列に終始する静態地誌的学習が高等学校地誌学習において、依然として主流を占める現状を指摘している。

これらを踏まえると、高等学校地誌学習は地域的特色を個別的知識の羅列として取り上げることに終始する静態地誌的学習が主流を占めており、地球的課題を取り上げ、動態地誌や比較地誌からの実践が希薄であるといえる。

(2) 生徒観

生徒たちは、中学校社会科地理的分野の「世界の諸地域」において主に州を単位とした諸地域学習と、高等学校地理歴史科地理総合の「国際理解と国際協力」において、世界の人々の特色ある文化について主題学習を行ってきている。一方で、前述の通り生徒たちは「世界のことを学ぶ学習」＝「世界各地の地域的特色を学ぶ学習」としたイメージを抱いている可能性がある。また、「正しい答え」を答えなければならない、という固定観念に囚われている生徒が多く、授業の中の問いに対して、唯一の答えが存在し、それを見付け、ノートにメモするといった固定的な学習観をもっている生徒も一定数見受けられる。

(3) 指導観

森川 洋（2004）は、地誌学の目標は「究極的には場所の特異性を描写することではなく、資本主義のダイナミックな将来を理解するよう啓発し、ひとびとにそのダイナミックな将来を決定する能力を与えること」であり、「地誌学は世界を知るための単なる道具ではなく、ひとびとの行動のための道具である。地理学者は、よりよい世界の構築計画に参加し、空間的公平を高めることによって社会を変化させることを目的とすべき」と整理している。これを地誌学習の目標として援用すれば、地域的特色を学ぶだけでなく、地球的課題を学び、その解決の方向性を多面的・多角的に考察・構想することまで学習活動として設定することが重要であるといえる。

また、地誌学習においては、システム思考と空間概念からのアプローチが注目されており（山本隆太、2017、阪上弘彬、2018、2019）、本単元では、このアプローチを基にした動態地誌的学習方法を採用する。主題「ヒスパニックを通してみるアメリカ」を設定し、単元を貫く問い（以下MQとする。）を「アメリカ合衆国にとってヒスパニックとはどのような人々なのか？」とする。MQに対する答えは、単元末のパフォーマンス課題「不法移民の取り締まり政策の影響（誰に、どのように、どのくらい）を考察するとともに、この政策が長期化した場合のアメリカ合衆国が迎えるシナリオを予測しなさい。そのシナリオによって特定の立場の人々が現在よりも困難な状況に陥る場合、それを回避するためのアプローチを提案しなさい。」に取り組む前提の理解となるよう位置付け、パフォーマンス課題の答えは「開かれた」形を担保する。

このパフォーマンス課題に取り組むために、単元を通じて、「物事の相互の関連性とその相互作用から生まれる全体像を把握する思考方法」（山本隆太・田中岳人、2017）であるシステム思考を働かせ、地域的特色を生み出す個別的知識同士のつながりが生み出す構造や変容を捉えさせる。また、ドイツのヴァルデンガが整理した四つの空間概念（コンテナとしての空間、関係空間、認知された空間、作られた空間）を基に、各次の学習活動では、各空間概念が対応するよう単元を構成する。

これらの学習を踏まえ、単元末のパフォーマンス課題に取り組ませることで、学習対象地域（空間）の空間認識だけでなく、空間形成の視点から現在の空間が持つ特徴や課題がどのように「作られているか」を把握し、未来の空間をどのように「作っていくべきか」を考察・議論させることで、単元の目標を達成することを目指す。

3 単元の目標

- (1) 北アメリカに見られる地域的特色や地球的課題などについて理解するとともに、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法を理解する。（知識及び技能）
- (2) 北アメリカについて、地域の結び付き、構造や変容などに着目し、システム思考を働かせ、アメリカ合衆国を中心とした北アメリカ地域の地域的特色や地球的課題を多面的・多角的に考察する。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 北アメリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
北アメリカに見られる地域的特色や地球的課題などについて理解するとともに、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法を理解している。	北アメリカについて、地域の結び付き、構造や変容などに着目し、システム思考を働かせ、アメリカ合衆国を中心とした北アメリカ地域の地域的特色や地球的課題を多面的・多角的に考察している。	北アメリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

5 単元の計画（全5時間）

時	ねらい・学習活動	評価の観点			評価方法
		知	思	主	
1	ロサンゼルスにおける人種別地区別人口割合の主題図からその特徴を読み取り、単元の学習に対する見通しをもつ。	○		○	ワークシート 行動観察
1	コンテナとしての空間、関係空間の視点からアメリカ合衆国を捉え、	○	○		ワークシート

	ヒスパニックに関する諸資料を読み取り、関係構造図を作図する。				
1	認知された空間の視点からアメリカ合衆国を捉え、ヒスパニックの認知のされ方の違いを、多角的に考察する。		○	○	ワークシート 行動観察
1	作られた空間の視点からアメリカ合衆国を捉え、ヒスパニックのイメージの作られ方の違いを、多角的に考察する。		○	○	ワークシート 行動観察
1	四つの空間概念それぞれの視点からアメリカ合衆国を捉え、不法移民の取り締まり政策による土の影響を多面的・多角的に考察する。	○	○	○	ワークシート 行動観察

6 学習の展開

時	学習活動	指導上の留意事項	評価規準【評価方法】(評価の観点)
1	<p>【課題把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> 野球選手の大谷翔平が現在所属するチーム名と、かつて所属していたチーム名を問う。 ロサンゼルス中心部の主題図から、ドジャースとエンゼルスの本拠地は 48km しか離れていないこと、ヒスパニックの占める割合が地区によって異なることを読み取る。 エンゼルスは白人層、ドジャースはヒスパニックのファンが多いこと、トランプ政権による不法移民の取り締まり政策によって、ロサンゼルスの街の様子が変化していることなどを、ニュース記事を読んでつかむ。(動機付け) 現代のアメリカ合衆国で、ヒスパニックには何が起きているのかと投げかけ、「アメリカ合衆国にとってヒスパニックとはどのような人々なのか」という MQ を提示する。(方向付け) ヒスパニックについて知っていることやイメージを表出させ、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題図から読み取ったことを個人でメモさせたのち、ペアで確認させる。 主題図から読み取ったことと、ニュース記事の内容の対応に気付かせる。 他者の意見で自分の考えになかったものはメモするように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国に見られる地域的特色を理解している。【ワークシートへの記述】(知技) アメリカ合衆国に見られる課題を主体的に追究しようとしている。【発表】(主学態) アメリカ合衆国に見られる課題を主体的に追究しようとしている。【発表】(主学態)
2	<p>【課題追究】 コンテナとしての空間、関係空間</p> <p>「ヒスパニックの人々はアメリカ合衆国の中でどのような生活を送り、どのように経済大国アメリカを支えているのだろうか。そこには地球的課題とどのような関連があるのだろうか」という問い(サブクエスション 1, 以下 SQ とする)を提示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 四つの空間概念のうち、「コンテナとしての空間」や「関係空間」からアメリカ合衆国を見ていくことを説明する。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料（人種・民族間の所得格差、人種別職業別民間被雇用者数の割合等）を読み取り、ヒスパニックの人々の生活の特徴をつかむ。 ・教科書や資料集を基に、経済大国アメリカとそれを支えるヒスパニックについての関係構造図を作図する。（情報収集、考察） ・作図した結果を基に、SQ1 に対する解答を各自でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取ったことを個人でメモさせたのち、ペアで確認させる。 ・関係構造図中で、ヒスパニックが関わる事象を着色させ、着目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカに見られる地域的特色や地球的課題などについて理解するとともに、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法を理解している。システム思考を働かせ、アメリカ合衆国を中心とした北アメリカ地域の地域的特色や地球的課題を多面的・多角的に考察している。【ワークシート】（知技、思判表）
3	<p>【課題追究】 認知された空間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アメリカ合衆国でヒスパニックの人々はどのような存在として認知されているのだろうか。」という問い（SQ2）を提示する。 ・授業者が Chat GPT に「ヒスパニックに対するイメージの違いを経営者や白人層など、異なる立場ごとに教えて」と入力する。 ・出力された結果から四つの立場（企業経営者、白人層、政治家、黒人層・アジア系等）に基づく特徴や違いを確認する。 ・授業者が Chat GPT に「四つの視点の根拠となる資料やニュース記事について、日本語で読める URL を教えて」と入力する。 ・出力されたそれぞれの URL を Google Classroom に貼り付け、グループごとに分かれて、資料やニュース記事を確認する。 ・それぞれ資料やニュース記事から読み取れた結果を全体で共有する。（情報収集、考察） ・SQ2 に対する解答を各自でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四つの空間概念のうち、「認知された空間」からアメリカ合衆国を見ていくことを説明する。1 次で各自が表出したイメージも振り返るよう促す。 ・この作業が生成 AI の出力結果に対するファクトチェックになることを説明する。 ・読み取れた結果と、授業冒頭で出力された四つの立場の特徴について、その整合性を吟味させ、過不足があれば、ワークシートにメモさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国に見られる課題を主体的に追究しようとしている。【発表】（主学態） ・アメリカ合衆国の地域的特色や地球的課題を多面的・多角的に考察している。【ワークシート】（思判表）
4	<p>【課題追究】 作られた空間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「異なるヒスパニックのイメージはどのように形成されているのだろうか」という問い（SQ3）を提示する。 ・授業者が Chat GPT に「こうしたイメージの形成についてメディアはそれぞれどのよ 		

	<p>うに報道していますか」と入力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出力された結果から四つの立場（リベラル、保守メディア、スペイン語系メディア、地元紙）に基づく特徴や違いを確認する。 ・授業者が Chat GPT に「同じトピックに対して、異なる評価をしているニュース記事を、日本語で読めるものを紹介して」と入力する。 ・出力されたそれぞれの URL を Google Classroom に貼り付け、個人で各記事を読み、それぞれの違いについて、グループや全体で共有する。（情報収集、考察） ・SQ3 に対する解答を各自でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出力された結果の中の事象について、必要に応じてインターネットで情報収集を行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国に見られる課題を主体的に追究しようとしている。【発表】（主学態） ・アメリカ合衆国の地域的特色や地球的課題を多面的・多角的に考察している。【ワークシート】（思判表）
5	<p>【課題解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元末のパフォーマンス課題「不法移民の取り締まり政策の影響（誰に、どのように、どのくらい）を考察するとともに、この政策が長期化した場合のアメリカ合衆国が迎えるシナリオを予測しなさい。そのシナリオによって特定の立場の人々が現在よりも困難な状況に陥る場合、それを回避するためのアプローチを提案しなさい。」に取り組みさせる。（考察・構想） ・各自の答えをグループや全体で共有する。（まとめ） <p>【新たな課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国におけるヒスパニックを取り巻く問題は、アメリカ合衆国固有のものなのか、現代世界の他地域でも見られるものなのか、これから起こり得るものなのかについて投げかける。（振り返り） 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通じて取り組んできた四つの空間概念（コンテナとしての空間、関係空間、認知された空間、作られた空間）それぞれを意識して取り組むよう指示する。 ・移民や外国人労働者を取り巻く問題が、地域固有の課題ではなく、地球的諸課題の一つであることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカに見られる地域的特色や地球的課題などについて理解するとともに、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法を理解している。システム思考を働かせ、アメリカ合衆国を中心とした北アメリカ地域の地域的特色や地球的課題を多面的・多角的に考察している。【ワークシート】（知技、思判表）※7 パフォーマンス課題の評価ルーブリック参照 ・よりよい社会の実現を視野にアメリカ合衆国で見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。【発表】（主学態）

7 パフォーマンス課題の評価ルーブリック

	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
知識・技能	不法移民の取り締まり政策によって恩恵を被る複数の立場や産業の人々と、悪影響を被る複数の立場や産業の人々を	不法移民の取り締まり政策によって恩恵を被る立場や産業の人々と、悪影響を被る立場や産業の人々を理解している。	不法移民の取り締まり政策によって恩恵を被る立場や産業について理解することができていない。

	理解している。		
思考・判断・表現	政策が長期化した場合のシナリオを多面的・多角的に考察することができる。	政策が長期化した場合のシナリオをいずれかの立場もしくは側面から考察することができる。	政策が長期化した場合のシナリオを単元での学習を基に考察することができていない。

※ C評価の生徒に対する手立て

SQ1～SQ3の答えを振り返らせ、各SQの答えをパフォーマンス課題の解答作成に活用するよう促す。

8 参考資料（ヴァルデンガによる四つの空間概念）

空間概念の名称	空間概念の由来	学習対象に対する視点
コンテナとしての空間	伝統的で空間科学的な地理学	学習する地域に含まれる地形や気候、工業や農業などの諸分野から網羅（静態地誌）的に学習する視点
空間構造研究の空間（関係空間）	1970年代からの空間的アプローチのもとで発展した空間構造研究	学習する地域における具体的な対象物の位置や距離、対象物間の関係性（例えば、郊外地域とCBDの距離や位置関係）を学習する視点
認知地理学の空間（認知された空間）	1970年代末から始まった行動科学アプローチ	学習する地域を誰が（例えば、個人、特定の集団、組織）、どのように知覚するかによって、地域の認知の仕方や評価が異なる（例えば、住民と観光客からみた地域の認知・評価の差異）ことを学習する視点
情報伝達と行動に関する要素としての空間（作られた空間）	社会地理学	学習する地域を人間や社会によって作り出されたものと捉え、それが形成されるプロセスに着目し、地域がどのように形成されるかを学習する視点

阪上弘彬（2018、2019を基に、一部修正）

9 参考文献

- ・小関祐之（2021）：総括：大学入試における地誌学習成果の評価について．日本地理学会発表要旨集、99、24.
- ・阪上弘彬（2018）：『ドイツ地理教育改革とESDの展開』古今書院.
- ・阪上弘彬（2019）：地域やその諸問題を客観的・主観的に分析する空間概念を用いた社会科地理的分野の授業デザイン．社会科系教科教育学会編：『社会系教科教育学研究のブレイクスルー—理論と実践の往還をめざして—』風間書房．193-201.
- ・山本隆太（2017）：空間コンセプト（Raumkonzepte）を軸としたドイツの新たな地誌学習の展開．新地理、65-3、34-50.
- ・山本隆太・田中岳人（2017）：地理学習におけるシステム思考を導入したESD授業実践—「アラル海の縮小」を事例として．教育と研究、35、57-78.
- ・吉水裕也（2025）：中等地理教育における諸地域学習の課題と展望．2025年人文地理学会大会研究発表要旨、19-22.

- ・ 森川 洋 (2004) : 『人文地理学の発展—英語圏とドイツ語圏との比較研究』 古今書院.
- ・ 文部科学省 (2018) : 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 地理歴史編.